

栃木県教育委員会指定研究学校（人権教育）研究のまとめ

足利市立御厨小学校

I 研究の概要

1 研究主題

互いに認め合い支え合いながら、生き生きと活動できる児童の育成
～子どもの心の声を感じ取れる教師を目指して～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

「基本的人権」は、誰もが保障されなければならない大切な権利である。しかしながら、同和問題をはじめとする、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人など様々な人権に関する課題が存在している。

栃木県教育委員会は、栃木県人権教育基本方針の中で、「人権の共存を人権尊重の理念とし、人権教育を人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動ととらえ、人権教育が、様々な人権に関する課題解決において極めて大きな役割をもつ」と述べて、人権教育を推進している。

また、足利市教育委員会は学校教育指導計画の中で「学校における人権教育は、教育活動全体を通じ、人権を尊重した差別のない人間関係の育成を目指して、計画的、組織的に推進されるものである」と述べて、同和問題をはじめ様々な人権問題解決に果たす学校教育の重要性を示している。

(2) 本校の教育目標から

本校では学校創立以来の精神である「求仁得仁」の精神を生かし、心の教育の推進を基盤として学校の教育目標のもとに、日々の全教育活動においてその具現化に努めている。

本校の教育目標

「豊かな心をもち、自ら進んで行動し、粘り強く、ともに伸びる子どもの育成」

- | | |
|----------|--|
| ○ かしこい子 | ・基礎・基本を身につけ、自ら学ぶ子
・めあてをもって、筋道を立てて考える子
・自ら考え、力を合わせて、進んで行動する子 |
| ○ たくましい子 | ・心と身体の健康を鍛え、自立に向かって努力する子
・基本的生活習慣を確立し、道徳的実践に取り組む子
・目標に向かって、最後まで努力する子 |
| ○ やさしい子 | ・自他の生命や、相手の気持ちを大切にする子
・自然に親しみ、豊かな感性のある子
・わがままをおさえ、互いの個性を認め合いながら、
自分の個性を生かす子 |

特に、「やさしい子」の育成では、かけがえのない子どもたち一人一人のよさを生かし、共感と支援を基盤として、日々の教育活動に取り組んでいる。そこでは、本校人権教育目標の「互いの『よさ』を認め合い、主体的に考え正しく判断し、生き生きと活動できる児童を育成する」が中核になると考える。

(3) 児童の実態から

本校の児童は明るく素直で学習や係活動に一生懸命取り組む姿が見られるが、学習や学校行事で自ら学び行動するという主体性がやや不十分であった。そこで、児童一人一人のよさや可能性を生かすことを基本に据え、学ぶ楽しさを味わう体験を重ねることをとおして自己教育力の向上を図り、主体的に活動する児童の育成を目指して授業実践を重ねてきた。

また、子ども同士の交友関係が年々狭まり、人間関係も希薄になる傾向が見られるため、異年齢集団を意図的・計画的に作り、縦割班共遊や児童集会等の場で、様々な交流活動を実践してきた。さらに、地域の高齢者等との交流の機会を増やし、多様な年齢や立場の人々とのふれあいをおして、地域内外に目を向け、社会の一員として自分たちにできることを実践しようとする態度を育ててきた。

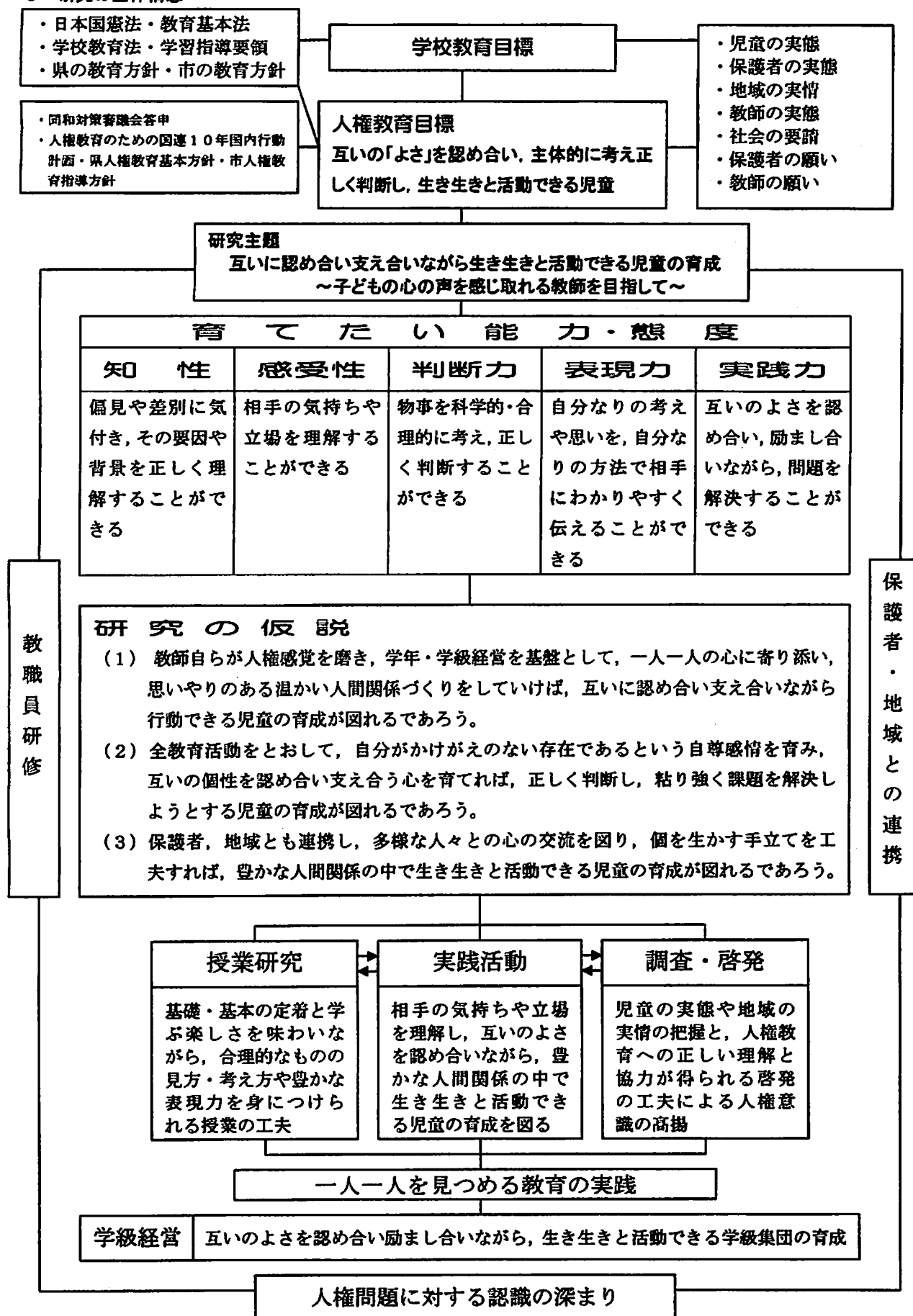
その結果、異学年間の助け合いが見られるようになり、異年齢活動における人間関係も円滑になってきているように思われる。

しかし、自分の考えや思いを表現することが苦手なため誤解されたり、相手の意見を受容的に受けとめることができないために互いに気まずい思いをしたりする児童も少なくない。また、教師からの指示を待っていたり、発言力のある一部の児童の意見に流されてしまったりする傾向も見られる。

つまり、相手に対する思いやりの気持ちや善悪を判断する力は育ってきているが、自分の思いや考えを相手にきちんと伝えたり、分かってもらえるようにていねいに説明したりする豊かな表現力や強い意志が十分育っていないと思われる。また、身近な問題を自分自身の問題として正しくとらえ、自ら解決しようとする実践力にやや欠ける傾向にある。

そこで、互いのよさを認め合い支え合える温かな集団づくりを目指した学級経営を基盤に、互いがそれぞれの思いや考えを受容し合える態度を育て、様々な場面で主体的に考え正しく判断し、生き生きと活動できる児童を育成しようと考え、冒頭のような研究主題を設定した。

3 研究の全体構想



4 研究主題のとらえ方

(1)「互いに認め合い支え合う」とは

集団の中で、自他のよさや思いを尊重し合いながら自分らしく生活しようとする態度ととらえた。

自他のよさや思いを尊重し合うためには、互いの立場や気持ちを受容的な態度で受けとめ合い、偏見に縛られず相手を豊かなイメージで受けとめられる感性を身につけ、互いの存在を認め合うことが必要である。また、他者の行為や態度の意味を真剣に受けとめ個性を尊重することは、自分と同じように他者を大切に考え互いに支え合うことにつながると考えた。

(2)「生き生きと活動できる児童」とは

課題解決に向けて、自分の考えをしっかりとち、正しく判断しその判断に基づいて粘り強く明るく行動できる児童ととらえた。

自分自身を肯定的に理解し、自分に自信をもち、自分の存在を価値あるものと受けとめられる自尊感情を育てることが、主体的に判断し、課題解決に向けてよいと思ったことを進んで実践する力を伸ばすことにつながると考えた。

また、課題解決に向けて行動を起こそうとするときには、他者との相互理解が不可欠である。相互理解、意思疎通のためには、様々な相手にていねいに自分の考えや思いを表現できる技能を身につけなくてはならない。他者を傷つけることなく自己表現ができる能力を育てていくことが、互いの個性を受容し合える人間関係づくりにつながり、人権尊重の教育の具現化にもつながると考えた。

(3) 副主題「子どもの心を感じ取れる教師」について

教師が自らの人権感覚を磨き、子ども一人一人の心に寄り添い、心の声に耳を傾けながら互いのよさや違いを認め合える集団を育てていこうとするとき、子どもの心の中にも支え合い励まし合おうとする連帯感が生まれてくるものと考えた。このように、教師の深い児童理解と個々の児童に合った積極的な支援の積み重ねが子どもの変容を促すものと考えた。なお、足利市においては長い間、同和教育をはじめ様々な人権問題解決に果たす学校教育の重要性を示し、教師に視点を当てて継続研究をしてきた。本校でもこれを受け、教師と子どもの信頼関係がとても大切だという視点に立って、この副主題を設定した。

そして、教師が保護者や地域と手を携えながら、子ども一人一人が確かに成長できる条件を整え、子どもを取り囲む様々な環境に配慮しながら、豊かな人間関係を育む教育実践を積み重ねたい。

5 研究の仮説

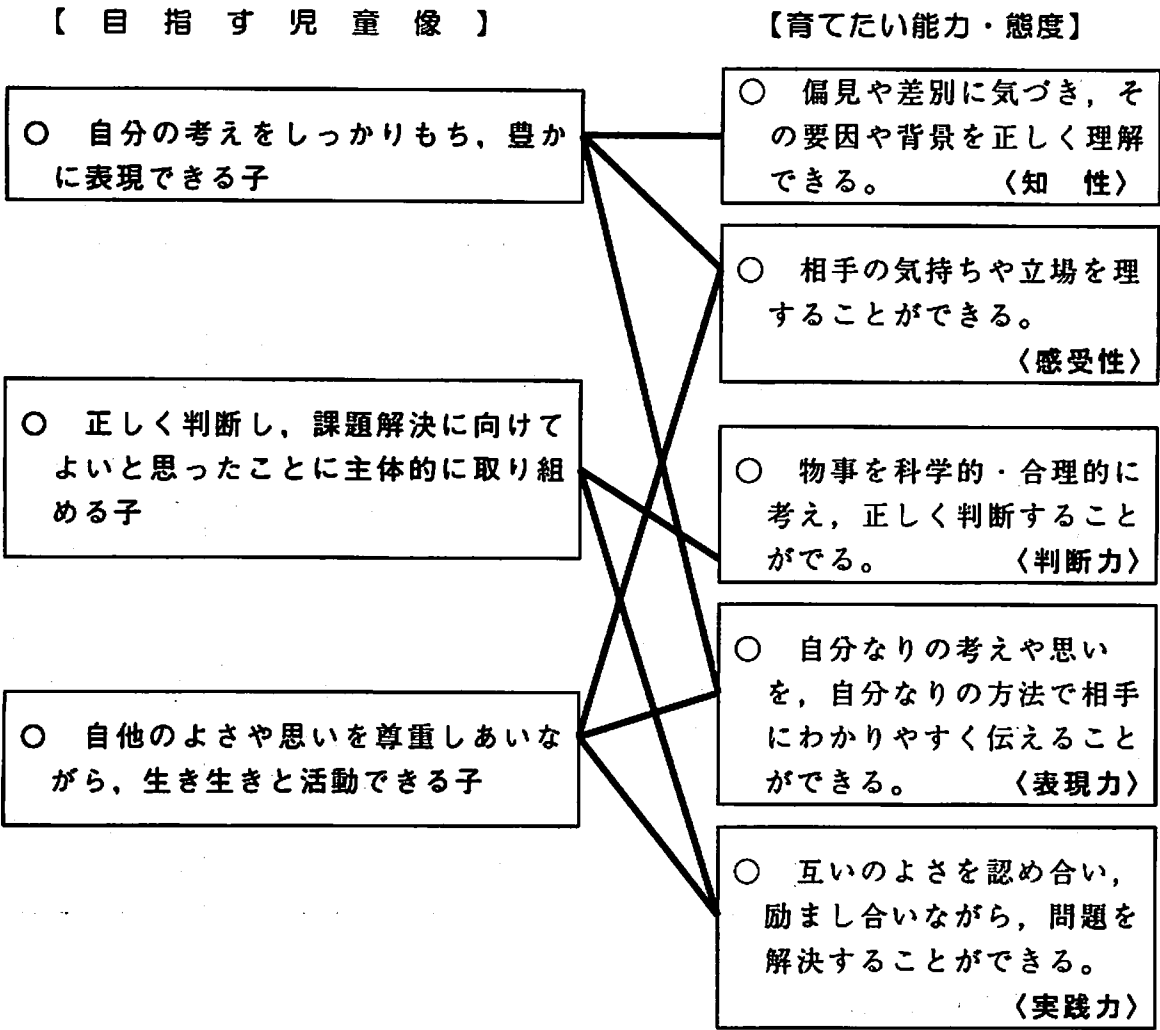
- (1) 教師自らが人権感覚を磨き、学年・学級経営を基盤として、一人一人の心に寄り添い、思いやりのある温かい人間関係づくりをしていけば、互いに認め合い支え合いながら行動できる児童の育成が図れるであろう。
- (2) 全教育活動をとおして、自分がかけがえのない存在であるという自尊感情を育み、互いの個性を認め合い支え合う心を育てれば、正しく判断し、粘り強く課題を解決しようとする児童の育成が図れるであろう。

(3) 保護者、地域とも連携し、多様な人々との心の交流を図り、個を生かす手立てを工夫すれば、豊かな人間関係の中で生き生きと活動できる児童の育成が図れるであろう。

6 人権教育で目指す児童像と育てたい能力・態度

本校の児童の実態を踏まえ、研究主題に迫るために、目指す児童像と育てたい能力や態度を検討し、設定した。

(1) 人権教育で目指す児童像と「育てたい能力・態度」との関連



(2) 発達段階に応じて育てたい能力・態度

育てたい能力・態度		低学年	中学年	高学年
知	偏見や差別に気づき、その要因や背景を正しく理解できる。	だれとでも仲良くし、困っていたら互いに助け合うと、楽しく生活できることがわかる。	外見や能力などの違いで差別してはいけないことを知り、よさを認め合うことの大切さがわかる。	日常生活の中にある偏見に気づき、他人を差別することなく互いに認め合うことの大切さがわかる。
性				

感 受 性	事実を正確に見抜き、差別に対する悲しみや苦しみ、怒りを感じることができる。	困っている友達や寂しがっている友達に気づき、思いやることができる。	相手の気持ちになって考え、思いやりの心をもつことができる。	相手の気持ちや立場を共感的に理解し、温かく受け止めることができる。
判 断 力	物事を科学的・合理的に考え、正しく判断することができる。	物事のわけを考えながら、素直な気持ちで善悪を判断することができる。	物事を筋道立てて考え、友達の言動に左右されずに善悪を判断することができる。	周囲の言動や利害にとらわれず、偏見をもつことなく物事の善悪を正しく判断することができる。
表 現 力	自分の考えや思いを、自分なりの方法で相手にわかりやすく表現することができる。	相手の話を最後まで聞いてから、自分の気持ちや考えをはっきり話すことができる。	相手の伝えたいことを正確に聞き取ろうと努力し、自分の考えをわかりやすいことばや文章で表現することができる。	自分の考えをもち、自分の考えと比べながら相手の話を聞き、自分の意見を論理的な文章やことばで伝えることができる。
実 践 力	互いのよさを認め合い、励まし合いながら、問題を解決することができる。	友達を大切にし、仲良く協力して活動することができる。	互いの考えを大切にし、助け合いながら、粘り強く活動することができる。	互いのよさを尊重し、協力し合っ て、学校生活などにおける問題を解決することができる。

6 研究の基本方針

(1) 人権教育の課題の明確化と研究組織の有機的な連携

児童・保護者・教職員の実態を把握し、本校の人権教育についての課題を明らかにし、解決のための全体構想を設定する。全教職員の共通理解のもと、研究組織の有機的な連携を図って、研究を推進する。

(2) 教職員の人権意識の深化

効率的な現職教育の実施と校外研修への積極的な参加に努めることにより、教職員自身の人権意識を深め、互いの人権感覚を磨き合える教職員体制を作る。また、全教職員で共通理解を図りながら、本校における人権教育で育てたい能力や態度を明確にし、「足利市学校同和教育推進の方策」の自校化を図り、子ども一人一人を見つめながら日々の教育活動を実践する。

(3) 学年・学級経営を基盤とする人権教育の日常化

「一人一人の子どもの心を感じ取れる教師」を目指して、人権教育の観点から学年・学級経営計画を見直し、学級における温かな人間関係の醸成に努め、互いに認め合い支え合う集団づくりを推進し、人権教育の日常化を目指す。また、互いのよさを知り豊かな人間関係を築けるよう、学級の諸活動や異年齢集団活動、学校行事等で一人一人のよさを発揮できる場を意図的に設定する。

(4) 人権教育のねらいや内容を明らかにした授業と実践活動の展開

各教科等の特質や児童の発達段階に応じた「育てたい能力・態度」を設定し、人権教育のねらいや内容を明らかにした授業を展開し、授業で育てた能力や態度が発揮できる実践活動の実施方法や効果的な支援のあり方を工夫する。

(5) 基礎・基本の定着と学ぶ楽しさが味わえる授業の工夫

1時間1時間の学習内容を精選し基礎・基本の確実な定着を図り、相手を尊重する聴き方や話し方、科学的・合理的な見方や考え方を育てる。また、個の思いや願いを生かせる学習の指導法を工夫し、学ぶ楽しさが味わえるようにする。

(6) 「心の教育」の推進と道德の時間の充実

身につけさせたい態度や高めたい心情と関連する道德の時間の内容項目を選定し、教科や他の領域との関連を考慮しながら道德の時間を立案する。心に響く道德の時間を展開することにより、豊かな感受性と正しいと思ったことを実践しようとする意志力を育てる。

(7) 保護者・地域への啓発と連携

学校公開や授業参観・学級懇談、学校だより・学年だより等によって啓発活動を充実させるとともに、地域の人的・物的環境を生かした交流活動を取り入れることによって、家庭や地域との連携を深め、同和問題をはじめとする様々な人権に関する課題の解決を目指しながら人権教育を推進する。

Ⅱ 研究内容

1 学年・学級経営（低・中・高学年7077、学年部会、各学級担任、児童指導部、教育相談部）

【ねらい】 互いのよさを認め合い励まし合いながら、生き生きと活動できる学年・学級集団の育成

(1) 人権教育推進の方策（チェックポイント）の自校化を推進し、人権教育の観点から学級経営計画の見直しを図り、各学級での実践と支援の実際を記録し評価することで、常に学級経営の見直しと改善を進める。

(2) 「生かしたい児童」については、学級の中で長所や特性を生かす場を設定し、同学年担当者や教科担任、特別支援教育担当者、外国人児童教育担当者、心の教育相談員、学びの指導員、教育相談部等と連携を図りながら支援していく。

＜自校で作成した「チェックポイント」(一部抜粋)＞

ねらい	視点	学級経営・校内における生活の指導	各教科・領域等
(中学年) 友達を差別しない、互いに学び合い、助け合い、協力し合って生活することができるよう な人間関係を身につける。	(1)総合的・組織的に情報を収集し、児童の実態の的確な把握に努め、多面的に理解する。 (2)基礎・基本の定着を図り、どの子にも学び楽しさが伝わる授業の展開を工夫する。	◎教師から積極的にあいさつをし、また、子どもからのあいさつに對して適切に返しているか。 - どの児童にも教師から積極的にあいさつしているか。 - 児童からのあいさつに對して、適切に返しているか。 - 個々のあいさつをきちんと受け、居たがった雰囲気の中で次の1日をスタートさせているか。 - 日記、いじめアンケート等を通して、配慮を必要とする児童の発見に努めているか。 - 児童同士のトラブルなどの際は、両者の意見を聞き公平な指導をしようとしているか。 ◎日常観察から、言動、服装、友人関係など、その児童の実態に目をむけた情報収集をしているか。 - 毎朝の始業式での児童の服装や仕度から、心身の状態を把握するように心がけているか。 - 欠席した児童に欠席当日の出来事をしらせているか。 - 休み時間や放課後に児童と積極的に会話をしているか。 - 家庭訪問や教育相談など、保護者との面談を通して、児童ひとりひとりの状況を把握しているか。 - 児童ひとりひとりの指導情報を的確に整理しているか。(学級経営) 「配慮を要する」児童に対する支援を学級(学年)内や学校として、組織的にすすめているか。 ・A・A・Iや加減法、標準学力検査の結果を分析し、一人一人の特性や学習スタイルをよく把握しているか。 ・効率やスピードだけでなく、基礎の量かさや作業の丁寧さ等互いのよさを認め合える学級の雰囲気作りを努めているか。 ・ゆとりをもって児童に接しているか。 ・集団としての成長に目を奪われ、児童がいやな思いをしないように配慮しているか。 ・各教科の目標が重ならないよう調整したり、紙の学習「あゆみ」の時間の活用方法を工夫したりして、反復練習が加量型にならないように配慮しているか。 ・作業方法を理解させてから課題を出すようにしているか。 ・能力差や作業時間を考慮し、課題の分量を調整して与えているか。 ・課題の自力解決が難しい児童には、あゆみの時間を活用して個別指導をしているか。	- 適足、運動会等で弁当をひとりりで食べている児童を見逃していないか。(特活) - グループ編成の時、ひとりひとりの児童に対する配慮を十分しているか。(特活) - 学業内の席の決定に当たっては、一人一人が意欲的に取り組めるように配慮しているか。 - 共進、クラブ、部活動等の異年齢集団の活動時に「配慮を要する児童」に対して適切な支援しているか。 ◎一人一人の学習のスタイルや進みが違うことを理解し、支援に努める。 - 心の教育相談や学びの指導員、少年女性指導員、外国人児童教育関係者等との連携を図っているか。 - ノートやワークの活用、休み時間の活用等。 - 児童の進捗により一人ひとりの学習状況を把握しているか。 - 机間巡回等により個に応じた支援をしているか。 ◎学習の結果だけでなく、過程を大切に。努力を認め励ます。 - 授業中のノートや作業中の作品などを定期的に点検し、コメント等でそれぞれの努力を認め励ましていく。 - 单元や単元時間の基礎・基本を明確にし、個に応じて補充的学習や発展的学習が展開できる学習過程を工夫したり、補助教材を準備したりしているか。 - 体系的な活動なども取り入れ、楽しく意欲的に学習に取り組めるよう工夫しているか。 1分なりの力で学習課題にじっくり取り組んだり、ペアやグループで互いの考えや思いを伝え合ったり合ったりする場を確保しているか。 - 予想されるつまづき等に応じてヒントカードや学習プリント等を用意しているか。

「子どもの心」の声を聞き取る教師を目指して

足利市立南小学校

☆週案に準じて活用する。日付は週案提出日。2週間分を張りかえる。

☆番号はラミネートのチェック表の番号。チェック項目は2週間ごとに各自が記入。

◎よくできた ○ある程度できた △あまりよくできなかつた

日付	9月25日	10月2日
項目	チェック項目	チェック項目
①	教師からあいさつ	教師からあいさつ
②	自分からのあいさつ	自分からのあいさつ
③	子役のBiyak	子役のBiyak
④	子役の身近にある	子役の身近にある
⑤	子役の身近にある	子役の身近にある
⑥	6年生と1年生の交流	6年生と1年生の交流
⑦	児童の意見や発言	児童の意見や発言
⑧	児童の意見や発言	児童の意見や発言
⑨	運動会に向けた	運動会に向けた
⑩	運動会に向けた	運動会に向けた
⑪	運動会に向けた	運動会に向けた
⑫	運動会に向けた	運動会に向けた
⑬	運動会に向けた	運動会に向けた
⑭	運動会に向けた	運動会に向けた
⑮	運動会に向けた	運動会に向けた

低・中・高学年別に
チェックポイントを作成。
活用しやすいようにラミネ
ート版にし、週案にはさん
だり、教室に掲示したりし、
いつもすぐに見られる
ようにした。

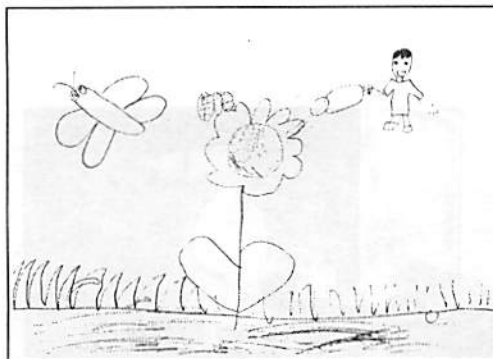
チェックポイントをもとに、教師一人一人が
具体的に項目を設定し、
自らの実践を振り返る。
2週間ごとに記入し、
記録を蓄積していく。

2 授業研究（低・中・高学年ブロック、学年部会）

【ねらい】 基礎・基本の定着と学ぶ楽しさを味わいながら、合理的なものの見方・

考え方や豊かな表現力を身につけられる授業の工夫

- (1) 基礎・基本の定着を図り，個を大切にする指導の工夫
- (2) 相手の思いや立場を尊重する聞き方，話し方を身につけさせる指導の工夫
- (3) 科学的・合理的なものの見方・考え方を身につけさせる指導の工夫
- (4) 共感的理解を深める指導の工夫
- (5) 「育てたい能力・態度」を位置づけた研究授業の実践と年間指導計画の改善

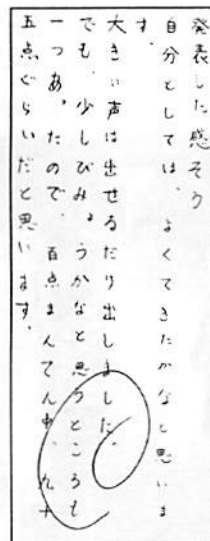


席がとなり同士の児童が、相手の気持ちを考えながら2人で描きあげた1枚の絵（2年道徳）

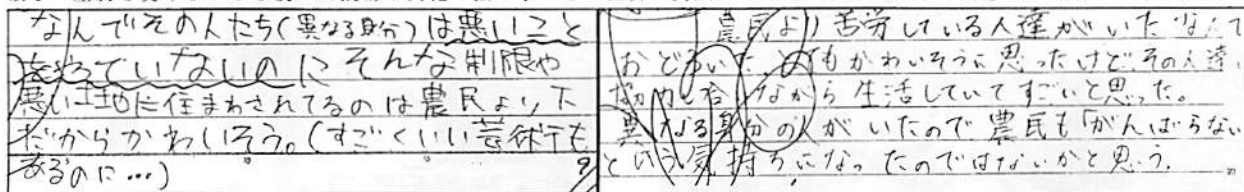


一人一人に目を向け、教師と児童の心の通い
あいが見られたワークシート（５年道徳）

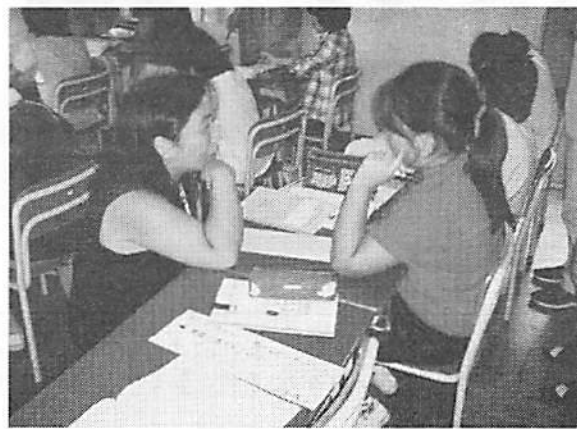
少人数で意見交換をし、自分の意見を伝えることをねらった国語の授業(3年)



厳しい差別を受けながらも優れた技術や文化の担い手として社会に貢献した人々のすばらしさを共感的に理解する(6年社会)



一人一人を大切にする授業



子どもの願いや悩みを感じ取れるように

3 実践活動（児童集会、縦割り班活動、クリーン御厨、運動会等）

【ねらい】

- ・自分たちの生活の向上と、身の回りの諸問題を解決するために、粘り強く主体的に活動できる実践力をもった児童の育成
- ・相手の気持ちや立場を理解し、互いの良さを認め合い励まし合いながら、問題を解決していく児童の育成

- (1) 活動のねらいと「育てたい能力・態度」との関連を明確にした交流活動が展開できるよう、実施計画を見直す。(チェックポイントの作成と活用)
- (2) 各学級で育てられた一人一人の子どもの資質や能力を、多様な集団の中で生かす支援の仕方を工夫する。
- (3) 実践活動担当者と学級担任の連携を図る。



縦割り班での集会活動



あいさつ運動



地域の人と一緒にクリーン活動



隔週で実施される縦割り班共遊

9月28日 木 28日
今日は、運動会がありました。係で敬老席もやって、麦茶を
くばっていたら敬老の方々がすごく喜んでくれてうれし
かったです。
最後同点優勝になって、すごく良い思い出です。

5月24日(金) 天気
今日は、初めてのたてわり班共遊に、たのび
ました。みんなをまとめる役は、ちびで変
な、でんかいてはうさぎに、うさぎか
いたけ、うさぎめ、うさぎで教えました。
少し痛かったけど、楽しい共遊でした。
そのまが、おけに、うさぎを、うさ
ぎを見たです。これから、うさぎ
にしたいです。

今日クリーン活動がありました。ぼくは、危険物担当でした。特に多かったのがライターでした。中にはまだ使える物もありました。ぼくは、「去年よりゴミがへったな」と思いました。その時に、町内の人々が町をきれいにしようとしているんだな実感しました。

4 調査・啓発

【ねらい】 児童の実態や地域の実情を把握し、人権教育への正しい理解と協力を得るための啓発を工夫することにより、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、家庭や地域の教育力を高める

- (1) 人権教育の推進に役立つ調査内容や方法を検討する。
- (2) 実態調査の結果を分析し、本校の人権教育が抱えている課題を明らかにする。
- (3) 人権教育推進のための効果的な啓発方法を工夫する。
- (4) 教職員の研修のための資料を提供する。

授業参観や車椅子・アイマスク体験後の保護者の声

人非教育にふさわしい内容だとは思いますが、絵やお面なども使
 った教材にしてみました。子どもたちにもよく分かってもらえると思ひます。
 お友達とでまじりながらのことと思ひます。また、さくらんぼやうすのこ、う
 すのこやきなどを作りました。あーふんふん、うすのこにうすのこと思ひます
 先生がこころをうすのこにうすのこ、うすのこ、うすのこ、うすのこと思ひます
 あらうすのこ、うすのこ。

投票参観の前日に子供から「道統の投票は人種について勉強する」と聞いて正直大人の私に父をすかしのに1年までに理解はできるのかと心配をくれた。しかし「人種」とは日々生活していくゆへにたくさんありとて必要であると思いました。この投票を機会に子供にも「差別する人」「差別される人」を持つてほしいとて。

[illegible]

陳宮者に對し獲物の如し、手も差し出でざるが故書
を針につけては、又「は賛同いたします。
今回の車椅子について、触つたこともなく、よい路路
破とさせていたたき、大満足する「社会に貢献で
きるような者になつてほしいと願ひます。

貴方は休職をなさる事、でよい。見て當り前、歩いて當り前の
の毎日を送つてゐるが、いつ自分し障害を持つかわかりせん。目の不
自由な生活にせよ、恐怖と不安な生活か、不變れかわりました。
来い事と理學上は、いふ努力が必要で、道徳的な事は、通りにいふ事
よくわかり、今までの生活からいふ、根柢が、いふ障害を持つ方が
過ごせ、環境によつて、いふ努力、いふ、見、いふ。

小達は 毎日の生活の中で 当然のように 芝草を飼っています。でもそれは 多分
では無いのだと、今日お話を聞かされた。「芝草は健康草」なんだのだ。芝草は
自然の力に育ち、だんだん、それと並行して大きくなる。芝草は、同じく、人
々を育てる草は、芝草の力に育ち、だんだん、それと並行して大きくなる。芝草は、
同じく、人々を育てる草は、芝草の力に育ち、だんだん、それと並行して大きくなる。

人権週間の児童の感想

人の悪口を言わないよう誓いをつけました。でも少しイライラしていたりすると少し相手を、ののしるような事をぶつぶつ一言、二言と時々あります。それでも言葉づかいには昔よりもよくなりました。いろいろな事をこのごろ少なくなりました。

もしもだうとなくよくしたらともだちが「ふまし
た。ともだちのきもちがよかった」ました。
ともだち、たいせつだとおもいました。
それからもともだちといけんかをしな
いようにがんばります。

世の中には、重い病気にかかっている人が
いるんだなと思いました。よく、人に死ね、とい
っている人がいるけど、それが自殺という結果に
なってしまうこともあるから、そんなことはいわないで、
命をたいせつにしようと思いました。

わたしは走るのが大好きで、いつもみんなにぬかれて走りつづけて音楽がしくて。でも運動も勉強も苦手な人かい。

けれどそんな人もやればとくになることもあると
思ふ。だって運動より勉強よりナームワークが大切だて運動です、カードにもナームワークがないと書いてしまつて思ひし勉強だてみんなのみんながさるがないだからみんな、ナームワークをこたえよう。

ビデオ「純がくれた命」視聴後の感想（5年）

ビデオ「みんなで跳んだ」視聴後の感想（4年）

1 成果

- (1) 教師がチェックポイントを活用し、学校生活・学級経営・授業・交流活動などで、さらに深い児童理解を心がけたところ、教師が児童一人一人を大切に見ているとする人権尊重の意識が高まった。
- (2) 異学年や地域の人たちとの体験活動において、学級集団とは異なった場の中でも互いを思いやり、いたわりあって楽しく活動しようとする児童の姿がみられた。相手のことを考える言動が少しずつ児童にみられるようになった。
- (3) 保護者の人権教育についての理解が深まり、保護者会などでの話題や相談が多くなったりPTA活動などでの保護者の協力が大きくなってきた。

2 課 題

- 104 —

【研究同人】

校 長	土屋 隆	教 諭	真下 典久
教 頭	小野澤 隆	〃	橋本 真江
教 諭	須佐 俊彦	〃	若林 花織
〃	藤田 敏子	〃	縄田むつみ
〃	影山 敏子	〃	小林 真理
〃	山田 敏子	講 師	岡崎 佳子
〃	吉田由美子	〃	須永 文子
〃	尾花千代子	〃	新井美由紀
〃	島田あけみ	事 務 長	増田 茂行
〃	麻野 栄子	主 事	遠藤 幸枝
〃	慶野 八郎	技 能 員	麦倉 富雄
〃	山崎 陽子	事 務 員	吉澤 智恵
〃	吉澤 恵子	非常勤講師	佐藤 友代
〃	長 毅	〃	小見 樹里
養護教諭	菊地 礼子	〃	石原 瞬
教 諭	山崎 勝	〃	藤野千香子
〃	堀江 尚志	学びの指導員	遠藤まゆみ
〃	琴寄 知子	〃	齋藤裕美子
〃	河田 安彦	心の教育相談員	齋藤知恵子
〃	渡邊友紀子	〃	大木 雅子
〃	野邊 和博		
〃	北村美奈子		
〃	茂木 利子		

(17年度)

教 諭	北川由美子	主 任	岡田 洋子
〃	石原 玲子	非常勤講師	川村真由美
〃	高田 和子	学びの指導員	小磯 陽介
〃	増田 典子	養護助教諭	影山由紀子
講 師	田名網恒介		

平成18年度 足利市立教育研究所

教育研究所所長（学校教育課長）	上村	和章
教育研究所次長	村田	正幸
研究職員（指導係長）	井上	一
研究職員（指導主事）	石井	萬壽夫
〃	新井	功
〃	竹越	功祐
〃	松村	由紀
〃	新井	啓永
〃	関根	景子
〃	鈴木	一弘
〃	須藤	秀幸
〃	近藤	忠
〃	岡部	陽一

紀要414

平成18年度 教育研究所研究集録

平成19年3月発行

編集・発行者 足利市立教育研究所
 （足利市相生町1番地1）
 代表者 上村和章